



園だより

文京区立第一幼稚園
令和2年度11月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

想像する力を

園長 田村 秀子

木々の葉が少しずつ色付き、秋も深まってきました。どんぐりや種を小さな手に握って、嬉しそうに登園する姿も見られます。秋の木の実や美しく紅葉した葉は、自然からの嬉しい贈り物ですね。園の周りで見つけたもの、子供たちや先生たちが出かけた時に集めてきたものなど様々な自然物との出会いから、楽しい遊びが広がっていくことでしょう。

10月の運動会では、様々なご協力とアンケートの提出をありがとうございました。感染症予防対策を講じながら子供たちが元気に楽しく活動できるようにし、保護者の方々にも成長を感じていただけるようにと、職員皆で知恵を絞り、力を合わせた運動会でした。保護者の方々が整然と並んで入場し、決められた場所で参観し、心のこもった拍手をしてくださる雰囲気がとても温かく、子供たちも安心して力を発揮できたと思います。園の不手際で多少混乱したところもありましたが、子供たちにとって嬉しい日となり、保護者の方々にとっても子供の成長を感じる機会となったことが分かりました。温かい感謝の言葉や励ましの言葉をありがとうございました。引き続き感染症の予防対策を継続しながら、子供たちの体験が広がり、深まっていくように、園の環境や教育活動を工夫していきたいと思っております。

先日、新聞に7歳と4歳のお孫さんに読み聞かせをしている祖母の方の投書が載っていました。いつも娘さんが夜勤の時は、おばあちゃんが読み聞かせをしてあげているようで、お孫さんがある日、読み聞かせを聞いているうちに「何でだろう。涙が出た」と目頭を拭いていたそうです。普段はアニメが好きな孫娘さんも、静かにおばあちゃんの読み聞かせを聞くうちに物語の世界に入り、自分の経験とも重ね合わせて感動し、心が震えた初めての経験だったようです。4歳の孫息子さんも読み聞かせている絵本を覚えていて、おばあちゃんがページをめくるとそらんじているようで、おばあちゃんの願いが伝わり、とても素敵なエピソードでした。

幼稚園でも、子供たちは自分で絵本を見て、絵からイメージを膨らませたり、字を拾って自分で読んでみたりしています。特に大好きな先生に読んでもらうのはとても嬉しいようで、じっと絵本に見入り、「それってさっきのあれじゃないの?」「泣いてる」「やっぱり!」「よかったねえ」など自分なりに想像したり、予想したり、友達と共感したりしながら楽しんでいきます。いい絵本との出会いが子供たちの心を豊かにしていくことでしょう。幼稚園で友達と生活する中で嬉しいことも、悲しいことも、くやしいことも、楽しいこともたくさん経験している子供たちは、絵本の世界の登場人物や動物の気持ちを想像したり、自分だったらどうするか考えてみたりすることができるようになってきていると思います。

「大人に読んでもらうと、子供は字を拾う作業から解放された分だけ、読書という行為の本質的な部分、すなわち与えられた言葉を使って自分の中にあるイメージをつくりあげて、心の中で一つの経験をすることに入ることができます。～中略～そして自分でも言葉を通して、目には見えない世界をつくりあげるようになるのです」とは、松岡享子さんの言葉です。(「サンタクロースの部屋」より)

身近な人の温かいぬくもりと共に、一緒に想像の世界に入って楽しんだり、思ったことを伝え合ったりする時間を大切にしていきたいと思います。これからの社会を生きる力になることと思います。